令和８年３月１３日
地域運営学校
八王子市立長房中学校
【第１１号】

# 長房だより

～校訓「強く　正しく　美しく」～

## ここに地終わり、海始まる

校長　上田　太

表題の言葉は、アジアからヨーロッパにかけて広がる最大のユーラシア大陸の最西端、ポルトガルのロカ岬に建つ石碑に記されている言葉です。私がこの言葉を知ったのは宮本輝氏の同名の小説からでした。ここでは小説そのものの内容からは離れますが、この言葉について味わってみたいと思います。その昔、「地球は丸い。香辛料などが得られるインドに行くには、イスラムのいる東ではなく、西からも行けるはずだ。」と考えたヨーロッパの人たちは、西に向かい歩を進めます。しかしこの岬に着きその先にもはや陸はなく、海に乗り出すしかないことを悟ります。そして大航海時代が始まった…そんなふうに考えると何かロマンを感じます。「終わりは始まり」です。間もなく一つの学年が終わります。３年生にとっては９年間の義務教育の終わりです。ここから先は自分で開いた進路に向けて新たな航海に乗り出します。さあ、自分の五感と今まで身に付けた力を信じて大海原にこぎ出していきましょう。このひと月はそのための最後の助走期間です。

今月の全校朝礼講話はこんな風に話を始めました。そして最後のひと月の過ごし方について、旅のおしまいと新たな旅の始まりに向けていくつかお話をしました。（以下、トピックだけ記します）

【旅仕舞いの心得２つ】

その１　この学年で立てた目標、最後に帳尻を合わせよう
　・なりたいと思った姿になったつもりでふるまってみると
　・仕上げに学校あげてみんなで作り上げよう「卒業式」

その２　一期一会、どんなふうにお別れしますか？
　・もう一生会わない人もいるかも

【旅支度の心得２つ】

その１　自分だけの１年間、３年間を思い描こう
　・４月から好スタートを切るために

その２　あえて言おう、ボッチを恐れるな
　・一人ぼっちに　なるための　スタートライン（海援隊より）
　・「急いで行きたいのなら一人で行け　遠くへ行きたいのならみんなで行け」（アフリカの諺）

みんなが新たな門出を祝える餞（はなむけ）ができますように。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、この一年間の本校の教育活動に対するご理解とご協力に改めて深く御礼申し上げます。学校経営報告を学校ＨＰにアップしておりますのでご覧いただけますと幸いです。なお、今年度より異動する教職員の離任式は３月25日の修了式と同時に実施します。

**【保護者の皆さまへ　ご協力のお願い】**

上履きをリサイクル用に回収します

日程：～３月２６日（木）
対象：生徒の上履き、体育館履き、運動靴など
場所：３年昇降口（オレンジ色のケースの中へ）
八王子市ごみ減量対策課を通じて、海外の子どもたちへ送ります

標準服（制服、体育着）リサイクル

日程：いつでも受け付けます。
対象：生徒の標準服、体育着、上履き、体育館履き、ネクタイ、校章など
場所：事務室（職員室でも大丈夫です）
**PTA 制服リサイクルに活用させていただきます！**

## 特集　内申書と評価・評定（下）

（前月から続き）

（再掲）
1　保護者の方のご意見から
①　今時成績は絶対評価のはずだが、「全員 4、5 にする訳にはいかない、3 以下も一定数必要だ」と公言した教師がいる。
②　塾からも八王子市内の他校では４教科は４、５しか付けない中学校も結構あるのに、長房中の評価は異常に厳しく、受験において不利で可哀想だといわれた。
③　ある教師は、小テストの返却後、生徒の申告内容次第で点数 UP の修正をしているようだが、一部の女子にだけとても甘い対応をしているようだ。これらの不公平な対応には不信感しかない。

4　不信感の理由と公平性の確保

では、評価・評定に対する不信感や不公平感はなぜ生まれるのでしょうか。そもそも論で言うなら、全国一律の全く同じ基準の評価はないからです。想像していただけばお分かりの通り、これをするためには全国同一日時に同一問題を実施し、同一基準で採点しなければなりませんが、国が行っている年に一度の全国学力学習状況調査がどれだけ莫大な予算とエネルギーが割かれているかだけ考えても、年に複数回即時性が求められる学習評価には難しいことは明らかです。また学力とはペーパーテスト（＊この表現も徐々に死語となっていくものと思われます。今後は PC 上で行われるもの（CBT）がほとんどとなるでしょう）だけで測れるものではありませんし、人間性やこれまで取り組んできたことや姿勢などまで評価することはできないでしょう。さらに教育とはそもそもが地方分権的な要素がとても強いものです。国が一律にこれを、ということには昔からなじんでいません。現代も巷には様々な教育論があふれています。それを一つの基準で定めてその通りに評価するということは困難なことです。教育とは個々別々の子どもに対し、別々の教師が、様々な地域で行う営みです。ある地域で適切な教材が他の地域でも適切であるとは限りません。

このような訳で学習評価は指導者である教師が校内での検討を踏まえて行う仕組みになっていますが、文部科学省が掲げている学習評価の理念と内容がすべての教員に理解浸透することは簡単ではありません。一例を挙げるなら、現在次の新しい学習指導要領作成に向け盛んに議論されている中に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の評価方法があります。この評価観点は従前は「関心・意欲・態度」でした。他の 2 観点が振るわなくても（テストの得点が芳しくなくても）、授業で積極的に挙手して発言したり、提出物を欠かさず提出したりといった面で頑張っている生徒を積極的に評価してあげたいとする教員が多く見られました。しかしこうした評価材だけでは、学習者が本当に主体的に自ら学ぼうとしているのかが正しく見取ることができないのではないか、もっと自らの学習状況を踏まえて学習の取り組み方を工夫したり粘り強く取り組んだりする様子を評価しなければならないのだとして、観点も「主体的に学習に取り組む態度」と改めたのです。しかし、この考え方とその見取り方に全国の教員ごとの大きな違いが表れ、課題となっているのです。文科省もこのことを十分認識し、次期学習指導要領では記載が改められるとみられています。

また前号の 1 の中で述べた目標に準拠した評価を行う際に、目標（＝評価規準）の設定の仕方が教師によって完全に一致するとはならないのです。さらにたとえ仮にこの規準が教師の違いを超えて完全に同じだったとしても、対象の子どもたちが目標に到達している度合いにより、学校ごとに評定の分布割合は大きく異なります。

以上のように、学習評価は集団に準拠した（相対）評価でない限り、違いが生ずることは避けて通れません。

しかし問題はこれが、公平性が強く求められる入学選抜の得点計算に組み込まれていることにあります。そこで各校では常に学習評価が目標に準拠した評価として適正になされているかをチェックしていくことが欠かせません。例えば評価を付けるための問題である定期考査問題の作問にあたっては、学習指導要領に示されている目標に準拠しているか、問題として成立しているか、観点は適切か、難易度は適切かなどを教科担当者同士でチェックし、最終的には管理職が決裁しています。さらに、東京都では区市郡ごとに成績一覧表調査委員会というものを作り、それぞれの区域の中のすべての公立中学校の 3 年生全員の 2 学期末（12 月末）時点での評価・評定が適正に行われているのか調査しています。八王子市ではすべての中学校長と進路指導主任、市教育委員会指導主事が集まり、適正を欠く評価がなされていないかチェックをします。冒頭 1 の①のような教師の発言があったとすれば、理論上・理想上は当然「全員 4 又は 5」という評定はあるものの現実はなかなかそうなることはない、という意味です。はじめから 3 以下が一定数必要というわけではありません。そのように伝わったのならそれは伝え方に問題がありますから、注意していきます。ただし実際に「全員が 4 又は 5」、「半数以上が 5」などという評定があった場合、特異な（適正でない可能性がある）評価ではないかとして、改めて詳しい調査が入ります。その段階で初めて評価法に問題があることが判明し評価の付け直しをすることになればその影響は生徒や保護者、高校、中学校の教育活動そのものなどへの影響は深刻で重大なものになります。こうした事態にならないように、7 月下旬に 1 学期末の評定を持ち寄り、前述の調査会と同様な形で予備調査が行われています。もちろんこれだけで

なく、日頃から各学校での評価の検証、学校や教育委員会による評価の研修を不断に取り組んでいます。

５　一覧表調査結果はインターネットで公開されている

なお、成績一覧表調査の結果は東京都教育委員会に提出され、東京都がこれを集約し、最終的に検証した結果を公表しています。2025 年 3 月に公表されたものは、東京都教育委員会のホームページのトップページから、

教育庁トップ＞ お知らせ＞ 報道発表＞ 2025 年＞ 3 月＞ 都内公立中学校第 3 学年及び義務教育学校第 9 学年（令和 6 年 12 月 31 日現在)の評定状況の調査結果について

と辿るか、下のアドレスを直接クリックしていただくと見ることができます。

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/03/2025032705

ページの一番下には学校別の評定分布状況（個票）のリンクがあります。これを見ると校名は伏せられていますがすべての学校の評定状況が分かります。冒頭でご紹介したご意見②　塾からも八王子市内の他校では４教科は４、５しか付けない中学校も結構あるのに、長房中の評価は異常に厳しく、受験において不利で可哀想だといわれた。という塾の言葉があったとすればそれは事実に基づいてはいません。そうは言っても、各校で差があること、さらに同じ学校内でも教科によって差があることもまた事実です。東京都教育委員会はこの調査結果をふまえ、「成績一覧表及び調査書に記載されている目標に準拠した評価はおおむね適正に実施され、客観性・信頼性は確保されていると判断することができる。」としています。（下枠内参照　都教育委員会 HP より抜粋）

**都内公立中学校第 3 学年及び義務教育学校第 9 学年(令和 6 年 12 月 31 日現在)の評定状況の調査結果について**

１目的：都内公立中学校第３学年及び義務教育学校第９学年(令和６年 12 月 31 日現在)の学習指導要領の目標に準拠した評価による評定状況について調査を行い、評定の客観性・信頼性の確保に役立てる。

２調査内容　（略）

３調査対象　（略）

４調査結果

（1）各教科の評定分布状況　（全都集計した表で提示）

（2）今年度の調査結果の概要　（略）

（3）前年度の調査結果との比較　（略）

（4）調査結果の総括

区市教育委員会等からは、管下の各中学校等における評定分布状況を分析して継続的な指導・助言を行っており、各中学校等が、学習指導要領の目標や内容に基づいた評価計画、評価規準等を作成し、十分な評価資料を基に各教科の観点別学習状況の評価及び観点別学習状況の評価を総括した評定を行っているという報告を受けた。

このことから、令和 7 年度入学者選抜においても、成績一覧表及び調査書に記載されている目標に準拠した評価はおおむね適正に実施され、客観性・信頼性は確保されていると判断することができる。

５ 今後の取組

東京都教育委員会は、目標に準拠した評価が導入された平成 14 年度以来、適正で信頼される評価・評定に向けた取組を続けてきた。今後も評価・評定の客観性・信頼性を確保するとともに、生徒の学習到達度を的確に評価していくために、引き続き以下の取組を行う。

(1) 東京都教育委員会における取組

ア 成績一覧表の調査を継続して行い、目標に準拠した評価が適正に実施されているかについて検証する。

イ 目標に準拠した評価の精度を向上させるために、評定分布状況をグラフで確認できる資料などの提供を行うとともに、「子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む指導と評価の一体化を目指して」（東京都教育庁指導部、令和２年９月）を用いた研修会等を行う。

ウ 公立中学校等全体が成績一覧表及び調査書を適正に作成できるように、各区市町村教育委員会等を通して指導・助言を行う。

(2) 東京都教育委員会における各区市町村教育委員会等及び各中学校等に向けた支援

各区市町村教育委員会等が、評定分布状況をグラフで確認できる資料等により、管下の各中学校等における評定分布状況を分析して把握するとともに、分布結果を踏まえ、指導と評価の計画、評定への総括の方法等の一層の充実・改善を図るために研修会を実施するなどの取組を通して指導・助言を行えるよう支援する。

各中学校等が、自校の評定分布状況を把握した上で、指導と評価に関する校内研究・研修を一層充実させ、評価に対する校内の共通理解を図るとともに、適切な評価規準の設定や観点別学習状況の評価の評定への具体的な総括の方法をより明確に示し、生徒・保護者への説明責任を果たせるよう支援する。

参考資料 1 令和７年度選抜の調査と令和６年度選抜の調査における都内公立中学校等の評定状況についての比較

参考資料 2 中学校等別評定割合の状況 令和７年３月 31 日差し替え

別添 中学校別評定割合（個表）　　※下記リンクから直接見られます。

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/press2025032705_date03

６　課題

(1)評価・評定のあるべき姿　～指導と評価の一体化～

ここまでつらつらと２回にわたっていわゆる内申書と学習評価について書いてきました。現在の入学選抜のしくみに調査書(内申書)が組み込まれていることは、当日の学力検査一発勝負ではなく、子どもたちのこれまでの学習の積み重ねと日々の取組の大切さを担保するものです。また、本当に子どもを伸ばす評価というのは、学習者である子どもと指導者である教師が目標を共有し共に歩む中で行われて初めて効果を発揮するものです。これを「指導と評価の一体化」といいます。こうした学習指導のしくみや評価の仕組みが、今後もこれで良いのかどうか、今後の目指すべき社会を見据えて、日本国民が考えていかなければならないことですが、私は教育の現場に身を置く者として、現在の努力を続けていくことが大切だと考えています。すなわち、区市郡など一定の地域のまとまりの中でより具体的で明確な評価規準を作りブレない評価ができる仕組みを作ることや、全ての教師が自らが指導する教科をすべての子どもが好きになるような気概をもって指導することなど、そして何よりも指導者と学習者との信頼関係を作っていくことなど、数々の努力と工夫を重ねていくことです。

(2)信頼関係の醸成

冒頭１でご紹介した③のご意見のように、学校での取組の様子について、我が子から他のお子さんのことを聞くこともあると思います。良い子のようにふるまって実は良くないことをしている等、教員はそれを知っているはずなのに何もしない、見て見ぬふりをしている。一方で特定の子にはいつも注意をする、一部の子には甘い言動をする等等。公平感のある先生は信頼されます。一方でそのように感じられない先生は不信感が抱かれます。しかし、教員は様々な人生経験を重ねる中で、あることには厳しい考えをもつ（これだけは許せない、など)、またはあることを高く評価するといったそれぞれの物差しがあります。中学校以後の学校が教科担任制であるのは、様々なタイプの先生がいて、そこから世の中の人間のありようを学ぶ機会ともなるからです。ただし、人権上問題を感じたり法に触れるのではないかと感じたりされるような場合はその範囲を超えています。校長が保護者会などで「日頃お気づきのことがありましたらお伝えください」と繰り返し言っているのは、ほとんどの場合お伝えいただいたことを教員に伝え、意図や考えなどをやり取りすることによって理解と改善に至ることができるからです。あるいはごく稀に大きな問題をはらんでいることもあるかもしれません。隠れた重大問題が看過されることのないようにするためでもあります。学校評価アンケートはそのために実施しているとも言えます。こうしたことの積み重ねで教育の質が向上していくものと考えています。

したがって学校としては上記１のような疑念がおこらないようにするために、全教職員でこうしたご意見を共有し、人権尊重を第一にしながらお子さんを丁寧に見取り、学習評価・評定の付け方、伝え方についても不断の努力を続けていきます。

保護者の皆様におかれましても、共により良い学校を作っていけるように引き続きご協力をお願いいたします。(了)

【参考】

「内申書を問う」～教育評価研究からみた内申書問題～　田中耕治・西岡加名恵　編　有斐閣

「教育は何を評価してきたのか」　本田由紀　著　岩波新書

他

## 【長房中生の活躍】

### 八王子市小･中･義務教育学校合同作品展　第21回　おおるり展

１月１５日～１９日に、エスフォルタアリーナ八王子にて、第２１回おおるり展が開催されました。長房中学校からは、美術の作品を出展しました。

１年　１４名

２年　１１名

３年　　８名

※　２名の生徒は、東京都公立学校美術展にも出展されました。

### 生徒会　ペットボトル回収企画

昨年から皆さんにご協力いただいていたエコキャップ回収プロジェクトですが、目標個数を大幅に上回ったこともあり、２月末をもって一旦終了とさせていただきます！今回集まったキャップの個数は３７１９５個！→ワクチン 42 本になります！

### 年度末・年度始めの予定

| | | |
|---|---|---|
| 卒業式 | ３月１９日（木） | ９時３０分開式 |
| 修了式 | ３月２５日（水） | ２校時 |
| 離任式 | ３月２５日（水） | ３校時 |
| 始業式 | ４月　６日（月） | |
| 入学式 | ４月　８日（水） | |